



心過物誤  
四十

~ 13  
3838  
11



門 13  
號 3838  
卷 11

三十六編 阿修羅丸若來姫不懲されぬ非を改めずして終小命を煩す此時菜  
梅軒五支多別男子と名告り合悲喜交涙を催す話あり花形の鏡の由  
采黒八忠死且菊地自行淫婦結解小惑溺春之助軒討姪濱屋敷の執  
見不義三十一編 春之助英浦と三日市湯治場の昔語安養法師とられ  
く梅をとりて梅問不苦む鳥山青柳黑白對決の半小のる三十八編ハ  
自行闇愚み豊後を追ふ折くら若菜姫博多来り自行の狼火  
小僧了珍薄命の愁歎場三笠山大蛇川再變の取合三十九編よりおひあ  
黒崎の城あり毛刺と初之の出會花々く勇まは趣を專ら或ハ  
白梅寛小随くを果し又綾撥父仇を復す幸此編載す个四十編  
三笠山山鹿夫婦おひ大蛇川師弟を山田河内小殺す若菜姫九州小威を振  
小至る亀谷多門鳥山秋作力松と再會と島山小向ふ四十編以下又記す

板元菊壽堂小代りて校者柳亭種彦述

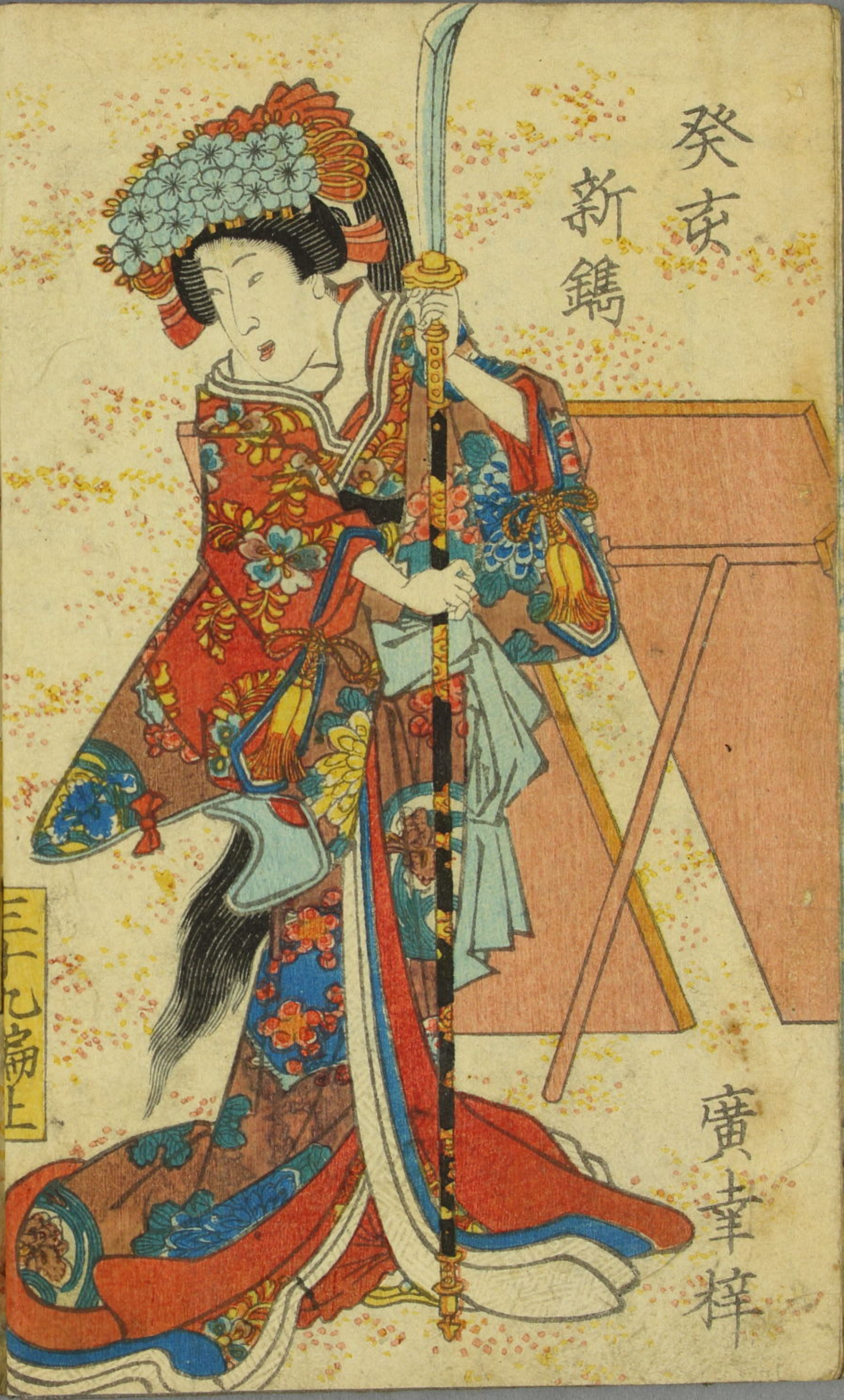
白縫物語  
種彦作  
芳幾畫



三十九編下

三十九編上

癸亥  
新鑄



廣幸梓

芳幾画

四十編下

廣幸  
文庫

種彦作

白縫譚

四十編上



白縫譚  
四十篇下  
作者

種彦

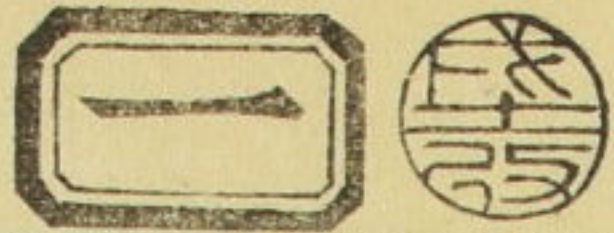
板元

菊壽堂  
畫工

芳幾

草冊子の兒戯の書あり読めざるも遠波や假字拾へども可とい其  
意解じむじのともと地をわらぬと井処といと糸と混て霞を粕味醬酒ふあり平  
假名計で書ものを却て読む難義あり濁点ひとも大更あるを發兌急ぐ問屋  
の定り此草紙も去年の冬より二帙の校合とが彫改めぬが刃けあり況や序  
文と口画との別物ゆへをいをせられ文字傍假字とも筆耕の謬のま彫り  
るに掛又小刀の先もて大きき世話もはとをれを事解れと前版の序文の  
首小風土記とふらとと傍假字あるの屏風や風情の風を不思風といひくか  
正こそ草稿小乖はさるん白縫の不知火あれぬいと唱のわらひ熟まて  
又書馴まひひもいとよむされ假名遣ひの正敷とく稱の古來のあり  
成がよ湯桶訓でも訛語でも称改のい却てつあ故人の序文は稗史の  
大人の覽あり東西とありぬと云く如きは世界故株ふあつる魁本ありを  
ごうでも可とあてわくと識者の誹謗と謝をんとて悪おれ口も老比くせ作  
者の苦心をかきしめふらとくも記をも又つし

柳亭種彦





筑前國  
嘉摩郡  
山田河内  
笠松の  
下にて  
御笠山  
伊達五郎  
暴雨  
冒し

五人の  
克徒を  
一刀小塵に  
変へ  
四十一編小  
詳あり



文の  
 次  
 乾  
 獵夫を  
 見  
 へる

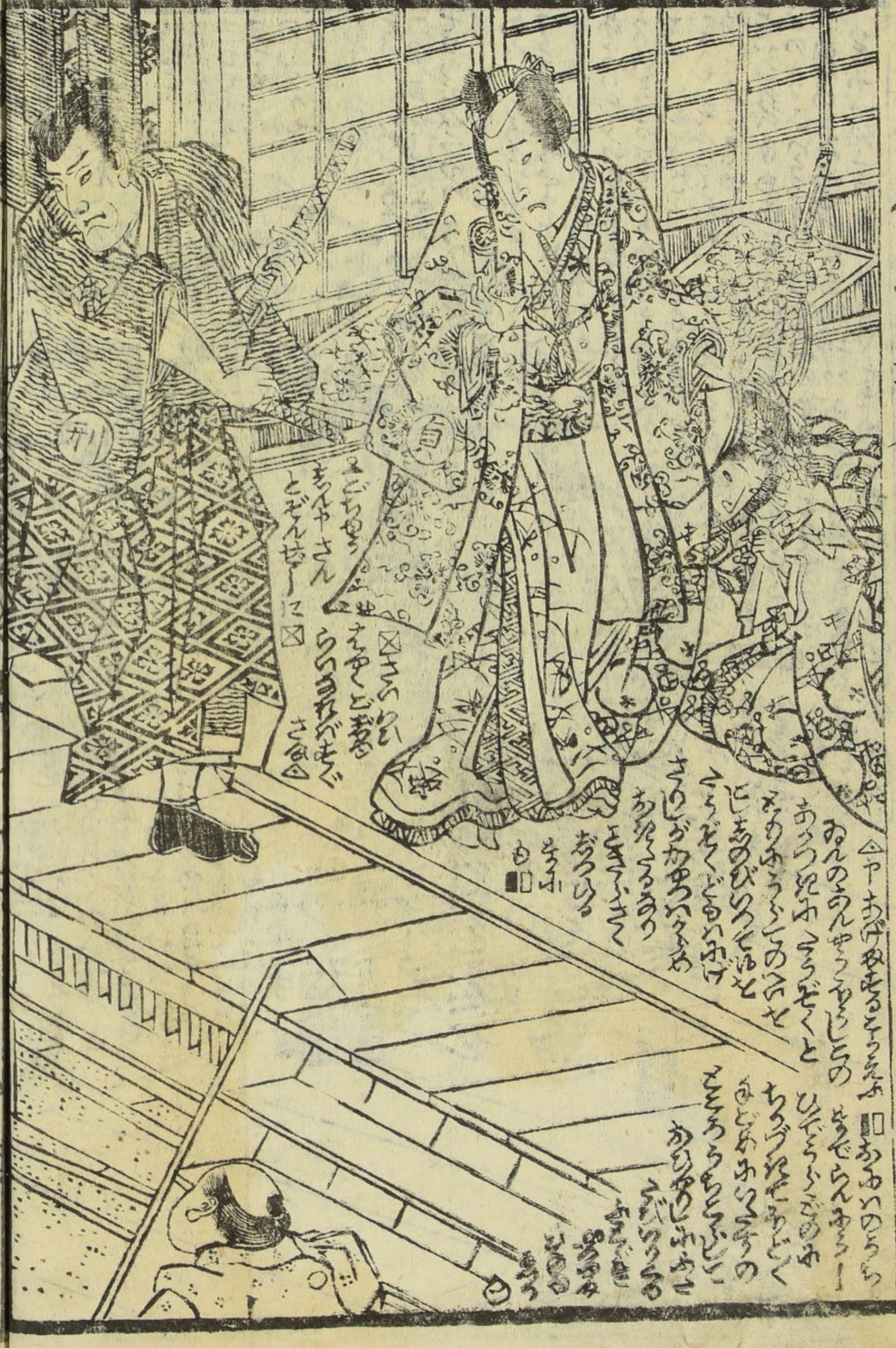


大隈  
 霧中に  
 麗山  
 の尾  
 鷲郡  
 良早  
 助  
 春之  
 青柳









きりぎりす二十九

一







三十九

十

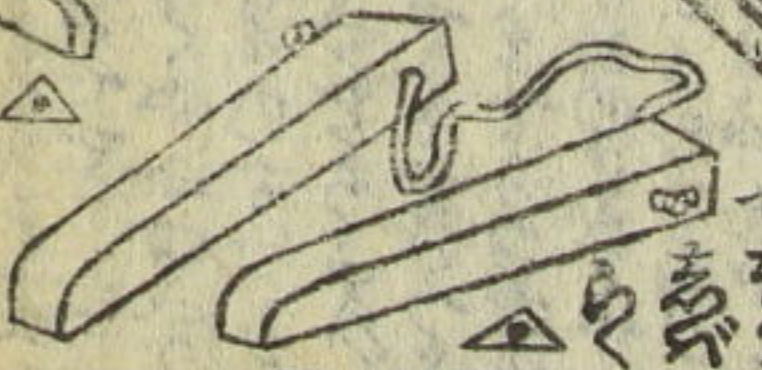
柳下亭 柳下亭  
 種員 劍業  
 柳亭 花のひこ  
 一惠 志のり  
 菊壽堂 菊のついで  
 己上  
 干櫛了茶 大々叶



あつひのり  
 愛臣の御  
 花のひこ  
 志のり  
 菊のついで

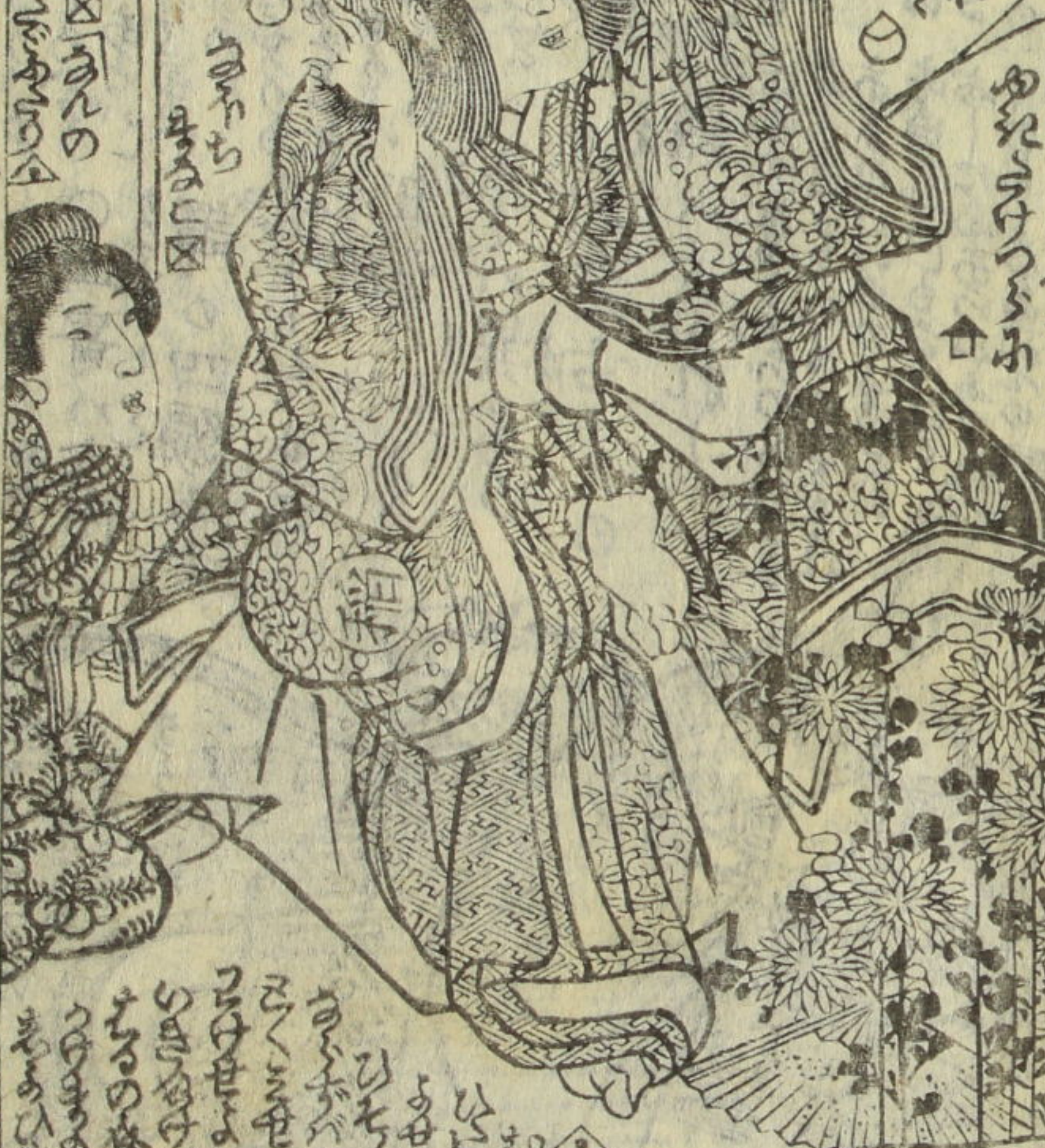


あつひのり  
 愛臣の御  
 花のひこ  
 志のり  
 菊のついで



重陽  
 歌舞の  
 畧圖  
 半張  
 づつあ  
 きりて  
 苦  
 うね  
 血寄  
 前  
 出

あつひのり  
 愛臣の御  
 花のひこ  
 志のり  
 菊のついで



あつひのり  
 愛臣の御  
 花のひこ  
 志のり  
 菊のついで

三十九

十



〇血寄の大内  
 譚の四編ゆ  
 出たきを  
 画面の似く  
 事ハ異あり  
 難いもの  
 〇英の  
 のの  
 せ  
 ま  
 せ  
 せ

〇血寄の大内  
 譚の四編ゆ  
 出たきを  
 画面の似く  
 事ハ異あり  
 難いもの  
 〇英の  
 のの  
 せ  
 ま  
 せ  
 せ



〇血寄の大内  
 譚の四編ゆ  
 出たきを  
 画面の似く  
 事ハ異あり  
 難いもの  
 〇英の  
 のの  
 せ  
 ま  
 せ  
 せ

〇血寄の大内  
 譚の四編ゆ  
 出たきを  
 画面の似く  
 事ハ異あり  
 難いもの  
 〇英の  
 のの  
 せ  
 ま  
 せ  
 せ























二〇〇六日十



新地逸雅

姫島真竜



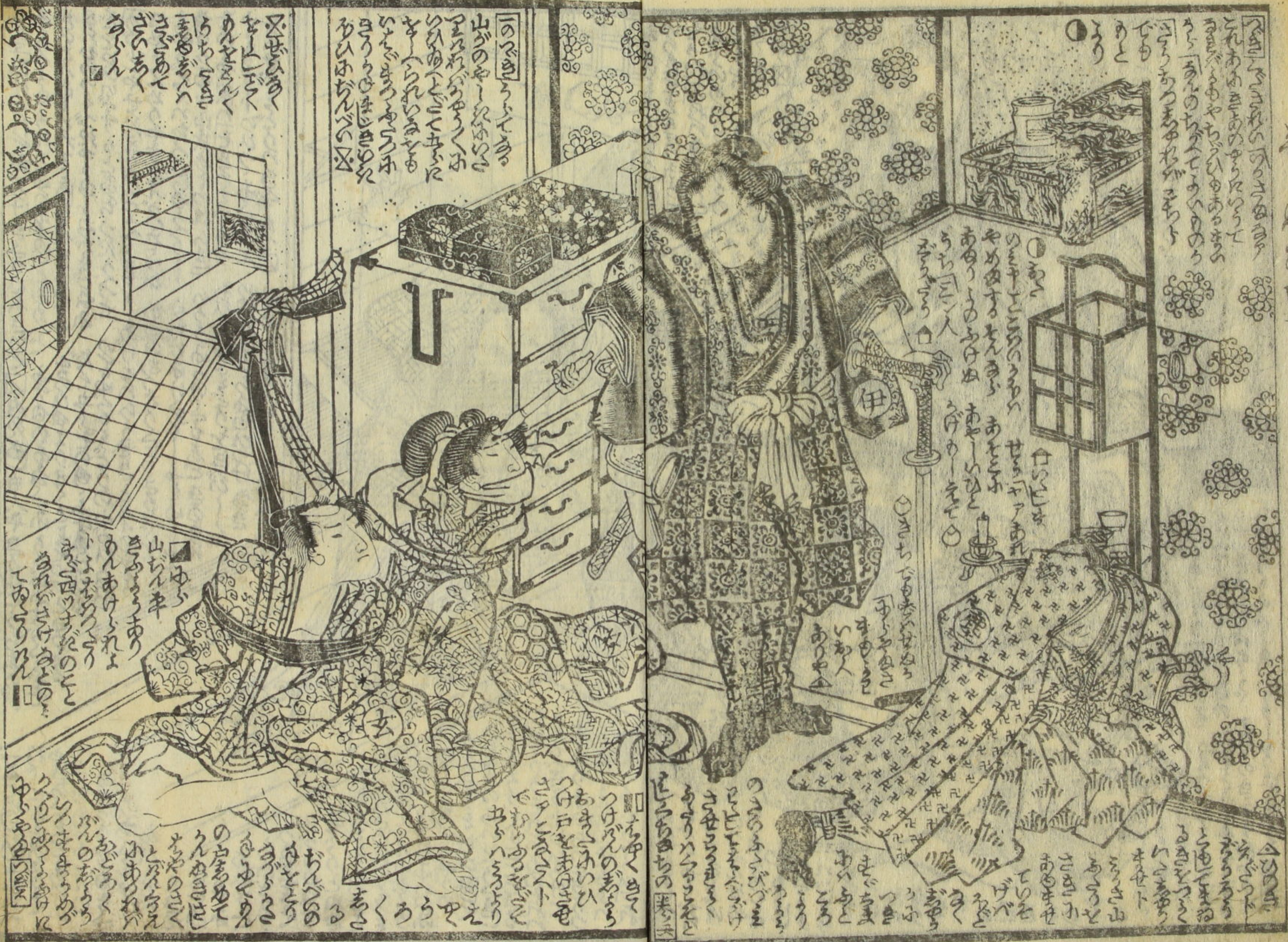
龜谷多門之助

於筆之方









山崎の

下

山崎の

下















若しぬし四井

十一

かき  
せんき  
ありて  
そのつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ

あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ  
あつ



このまをあらせ けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに

このまをあらせ けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに

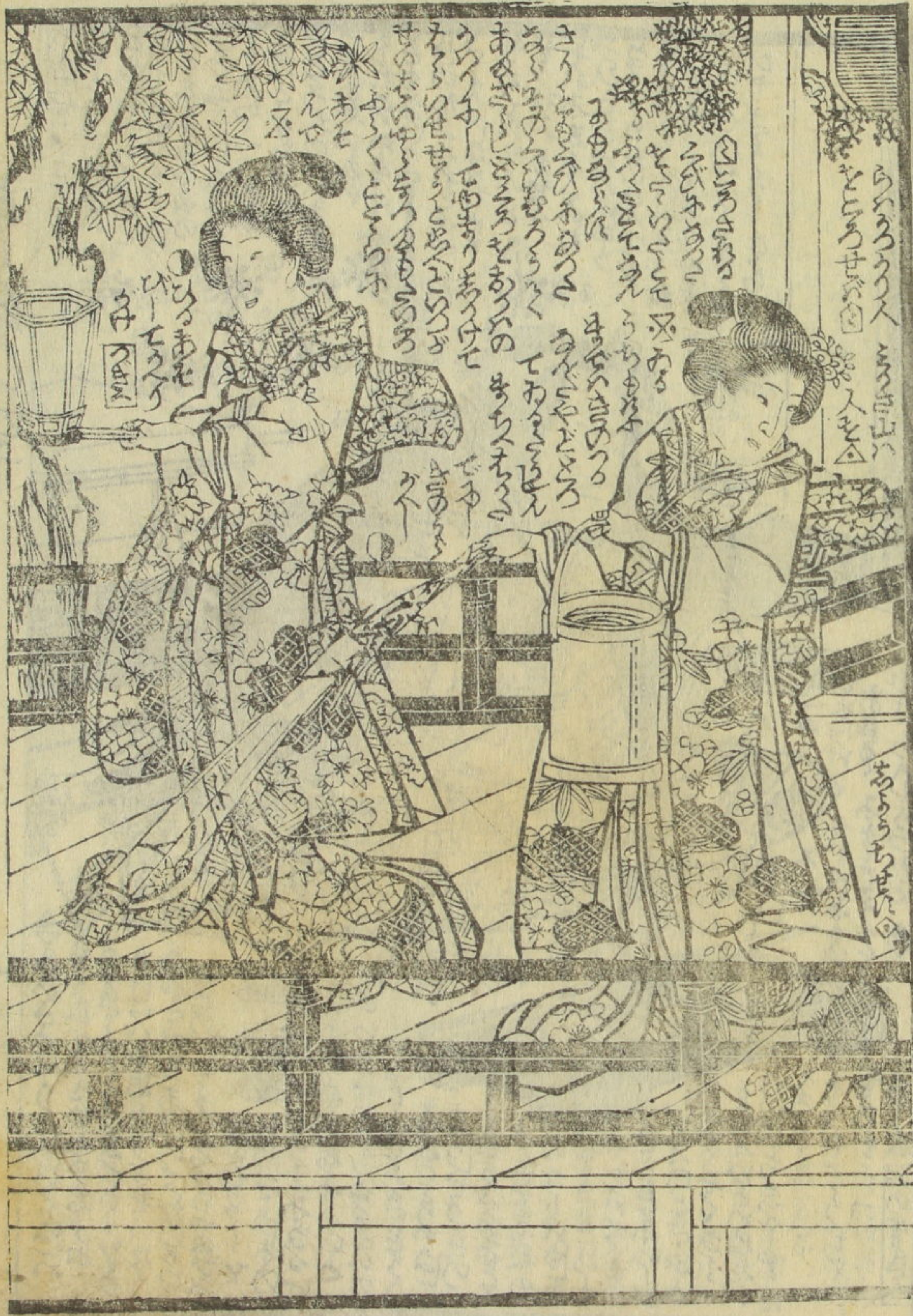


このまをあらせ けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに

このまをあらせ けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに  
みまなくとていふに けしきとていふに



Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or chapter heading.



Vertical columns of handwritten text on the left page, positioned to the left of the illustration.



Vertical columns of handwritten text on the right page, positioned to the left of the illustration.

Vertical columns of handwritten text on the right page, positioned to the right of the illustration.

Vertical columns of handwritten text on the right page, positioned to the right of the illustration.

Vertical columns of handwritten text on the right page, positioned to the right of the illustration.

Vertical column of handwritten text on the far right edge of the right page.



入四十一

十一



四十一

十五





Handwritten text at the top of the right page, likely a title or introductory note.

Handwritten text on the right side of the right page, possibly a name or a specific detail.

△このおのちのていしん... 九月九日のあけ... あつて京都... さいちかく... ままおつた... ちかひつ... そのまは... けいせいの... とぬらひ... けいせいの... あつて... 威光... かめ... あん... せん... せん... せん...

△このおのちのていしん... 九月九日のあけ... あつて京都... さいちかく... ままおつた... ちかひつ... そのまは... けいせいの... とぬらひ... けいせいの... あつて... 威光... かめ... あん... せん... せん... せん...

△このおのちのていしん... 九月九日のあけ... あつて京都... さいちかく... ままおつた... ちかひつ... そのまは... けいせいの... とぬらひ... けいせいの... あつて... 威光... かめ... あん... せん... せん... せん...

△このおのちのていしん... 九月九日のあけ... あつて京都... さいちかく... ままおつた... ちかひつ... そのまは... けいせいの... とぬらひ... けいせいの... あつて... 威光... かめ... あん... せん... せん... せん...

△このおのちのていしん... 九月九日のあけ... あつて京都... さいちかく... ままおつた... ちかひつ... そのまは... けいせいの... とぬらひ... けいせいの... あつて... 威光... かめ... あん... せん... せん... せん...

△このおのちのていしん... 九月九日のあけ... あつて京都... さいちかく... ままおつた... ちかひつ... そのまは... けいせいの... とぬらひ... けいせいの... あつて... 威光... かめ... あん... せん... せん... せん...



Handwritten text at the top right of the page, possibly a title or chapter heading.

刑

Illustration of a man in a kimono holding a box labeled '刑' (Krimu). He is standing over a kneeling man. A small table with a bowl and a box is in the foreground.

Handwritten text in the right margin, including the characters '刑' and '罰'.

罰

Illustration of a woman in a kimono holding a box labeled '罰' (Batsu). She is standing over a kneeling man.

Handwritten text in the left margin, including the characters '罰' and '刑'.

Handwritten text at the bottom left of the page.



柳亭種彦編次 一惠齋芳幾書

六文來書

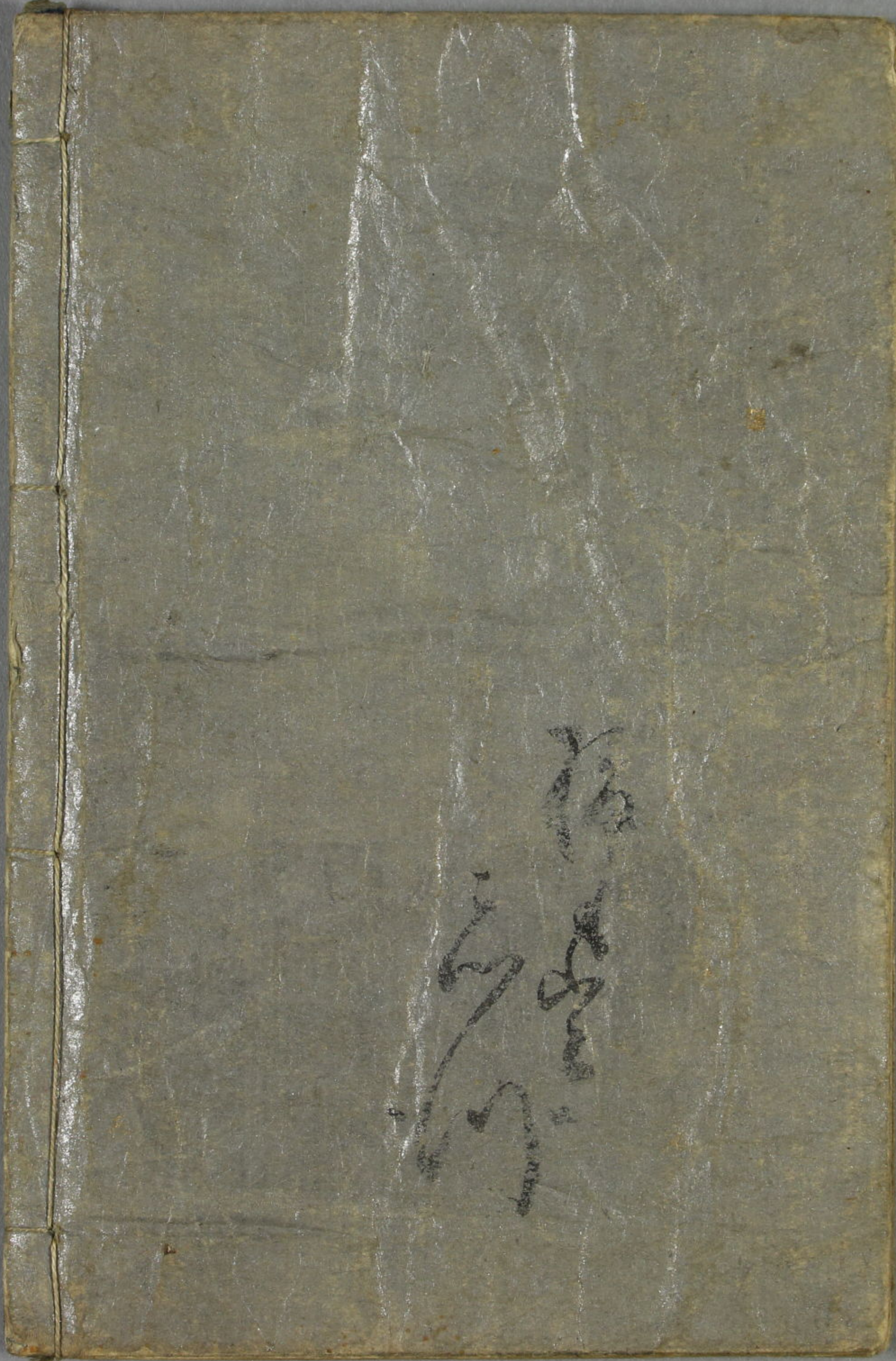


白縫嗣出概畧

四十一編 狐川が白状小刑部が隠悪顯は豊後が

追つ侍春之助時を得つと 虽貞行主従大友氏の膝下に腰を屈すに至る
岩太郎英浦を偷出 共小鳥山の女に摘み 愉快の話小畢里四十二編 綾機が
復讐小始り雪岡力松が怪力若狭國後瀬山に秋作照葉の再會龜谷多門
之助小令師於夏との風話此編の荒事より和夷子轉を四十三編はく山田
河内は伊達五郎が五人斬春之助悪を逞くして貞行於華方を追か
安養法師が怨魂英浦の皮肉不入怪談ホり四十四編 若菜姫黑崎城と
箕原ひ弟花形丸と再會是より島山の若菜昌威を九州小振中
と襲かに至る四十五編より五十編にわたり多分長編満尾して菊地大友
両家再興のめづらし小筆を留めく其六帙の
腰稿も再暇日を得て録をべし

柳亭種彦



Handwritten text in Chinese characters, likely a title or author's name, written in dark ink on the lower right portion of the cover. The characters are difficult to decipher due to fading and the texture of the cover material.